



▲代表で感謝状を受け取る文学部の香取一郎さん(右)



▲和楽器と洋楽器の融合(アトラクション)



▲お茶席体験でおもてなしの心に触れる

佐原文化協会60周年記念式典・アトラクション

会場を満たす文化の香り

5月3日、創立60周年を迎えた佐原文化協会主催による記念式典が佐原文化会館で行われました。式典では文化協会が長年活動してきた14人が表彰され、その功績に対して感謝状が贈られました。

式典後の記念アトラクションでは、古典舞踊部、民謡部、詩吟部、新舞踊部、音楽部の舞台発表があり、磨かれた技の披露に、来場者は濃密な時間を過ごしました。

また、佐原中央公民館では、絵画、技芸、文学、書道、写真、工芸・造景美術、生け花の7分野の作品展示が来場者の目を楽しませたほか、お茶席体験が行われ、作品鑑賞の合間の癒しの時間となっていました。

まちかど通信

楽しくホットなまちの話題をご紹介します

そば打ち体験教室

手先の感覚が全て



▲均一に混ぜないと切れやすいそばに

道の駅くりもとで、そば打ち体験教室が4月29日に開かれました。そば打ちは大きく分けて「鉢」「延し」「包丁」の3工程があります。一見して難しそうなのは麺を細く均等に切り分けていく「包丁」ですが、実は習得に一番時間がかかるのは「鉢」。鉢に入れたそば粉と水を混ぜる作業です。ここでそばの香りや食感がほとんど決まり、一滴の水の差し具合でも敏感に変わってしまうようで、参加者はそば打ちの奥深さに感嘆していました。

リトルリーグ全日本選手権大会 3位

敢闘! 連合チームで力を合わせ

11歳から13歳までを対象にした野球大会「インターメディアット全日本選手権大会」が5月9日・10日に茨城県常陸太田市で行われ、小見川・佐原・銚子リトルリーグが連合チームで出場しました。東関東連盟の予選で1位通過したものの、準決勝では関西代表貝塚リーグと接戦の末、サヨナラ負けとなってしまいましたが、3位と健闘。優勝チームは、アジア太平洋選手権大会へ出場できるため、開会式で選手宣誓を務めた松山大悟主将(佐原中)は悔しさをにじませ「次の全国大会を目指したい!」と力強く語ってくれました。



▲全国大会初出場の「小見川・佐原・銚子連合」チームのメンバー

観藤会

降るような花房の中を歩く

水郷佐原水生植物園では、5月3日、藤の花が見ごろを迎えました。この日は天候にも恵まれ、藤棚は多くの人でにぎわっていました。

木漏れ日の中、輝く散歩道を行く観光客たちからは、「こんなにきれいに咲いていると思わなかった。すごいねえ」「藤ってこんないい匂いがするの?」と歓声が上がり、手にした携帯電話のカメラでしきりにシャッターを切っていました。

また、この日はほどよく吹く風が気持ちよく、花房が揺れるたび辺りは藤の香りに包まれ、つかの間、夢心地に浸りました。



▲藤棚の入り口でさっそく撮影準備

田植え体験

のびの〜び 泥んこわんぱく隊

ゴールデンウィーク最終日の5月6日、道の駅くりもと付近の田んぼで、東京など都市部から来た約140人の家族連れが田植えに挑戦しました。これは、道の駅くりもとが都市農村交流・グリーンツーリズム事業として、米作り体験希望者を募集したものです。



▲カエルだって捕まえられた!

田んぼに入るのは初めてという人がほとんどで、「自宅近くには田んぼも見かけなくなり、今日をととても楽しみにしてきました」という親子も。初めは田んぼに入るのを怖がっていた子どもも、慣れてくると田植えの合間、ひょっこり顔を出すカエルなどの生き物をつかまえて大はしゃぎ。大人も一緒に泥んこだらけで田舎を満喫していました。

かわいいカモを作ろう

野鳥に親しみながら

5月3日、県立中央博物館(大利根分館)で体験講座が行われました。この日はカモなどの模型に色付けをして、自分だけのオリジナルのカモを作成。ホームページで知って大利根分館を訪れた蓮尾さん親子(柏市)は、博物館の職員から指導を受け、「初めての体験で新鮮です」とお母さん



▲お父さん上手だね

が言えば、小学5年生の紗耶さんは出来栄えににっこり。その傍らで、お父さんはまだ真剣に作業中でした。山武杉のチップを使った木質プラスチックのカモは、原材料の都合で扱っているのはここだけ。なお、この講座は8月29日・30日にも行われます。

みて見て Lovely Kids of Katori うちの子



外で遊ぶことが大好きな
元気な男の子です。

いとう ゆう
伊藤 優心くん
1歳9カ月(長岡)
パパ 伸雄さん ママ 幸子さん



お砂遊びとお兄ちゃんが
大好き♡

いしい みお
石井 美織ちゃん
1歳9カ月(西部田)
パパ 幸輝さん ママ 美知子さん



いつもニコニコ笑顔
乗り物がだいすき♡

くろだ しょうや
黒田 翔也くん
1歳9カ月(香取)
パパ 拓也さん ママ あかねさん



歌がとっても上手な
我が家のアイドル

すずきりの
鈴木 莉叶ちゃん
1歳9カ月(大根)
パパ 邦宏さん ママ 辰子さん

消費生活 センター通信 No.13

「好転反応」と言われても、
健康被害が出たら利用は中止

消費生活センター ☎(50)1300

事例

以前から続いている耳鳴りが治るのではとの思いから、電位治療器の無料体験に通い、その後機器を購入した。使用すると指先にかゆみを感じたので、担当者に伝え、「好転反応(回復に向かう過程の一時的現象)だから使用し続けて」と言われた。その後1週間使用したところ、かゆみが指先から体中に広がったため使用を止めた。体調不良になり困っている。

ひとことアドバイス

- ▷事業者の「好転反応」「毒素がでている」などの説明は、利用を継続させるためのセールストークである場合もあり、うのみにしてはいけません。
- ▷健康器具や健康食品等を利用する際は体調の変化に注意し、健康被害が出た場合はいったん中止して、早めに医師に相談しましょう。

ごみのこと かんガエル



環境安全課
☎(50)1248

「ごみ出し3原則」を地域みんなで守りましょう

- ①決められた日の朝8時までに出す
 - ②決められた場所に出す
 - ③決められた指定袋に入れる
- ごみは分別して出しましょう

- ◇可燃ごみ…透明の指定袋
- ◇不燃ごみ…赤色の指定袋
- ◇資源物

ペットボトル…緑色の指定袋、ビン・カン…黄色の指定袋、紙類…ひもで十文字に束ねる、衣類・布類…半透明の袋に入れる

- ◇大型可燃ごみ…ひもで束ねる
- ◇埋立ごみ…半透明の袋に入れる

ごみステーションは、利用者が協力して管理しています。収集日以外や8時以降に出すと、次の収集日までごみが残ってしまい周辺住民や通行人の迷惑となってしまいます。